

序章 調査研究の概要

◆ 調査研究の背景と目的

- 整備後30年以上経過した公共施設が多く、老朽化に伴う維持管理費・改修費の増大が見込まれることから、計画的・戦略的な更新や利活用の検討が求められている。
- 牛久運動公園の施設も老朽化が進んでいる。とりわけ、プールは新型コロナウイルス感染症の流行により長期間営業が休止されて以降、再開していない。
- 少子高齢化や人口減少、スポーツ・余暇活動の多様化などにより施設利用ニーズは変化しており、限られた財源の中での効率的・効果的な施設管理・運営が求められている。
- 社会情勢や財政状況、市内スポーツ施設の現状及び市民・利用者等のニーズを踏まえ、牛久市にふさわしいスポーツ施設のあり方と適切な管理・運営手法を検討する。

第1章 調査研究を取り巻く環境

◆ 人口の推移とスポーツ施設利用への影響

- 高齢者人口の割合が増加する一方、年少人口は減少傾向にあり、生産年齢人口の縮小も見込まれる。このような人口構造の変化を踏まえ、スポーツ施設においても、競技志向の利用に加え、健康づくりや生涯スポーツ、交流促進などの、多様な利用ニーズへの対応が求められる。

◆ 市内のスポーツ施設

- 運行公園、運動広場、市内の小中学校などの公共施設に加え、民間スポーツ施設も多く存在している。

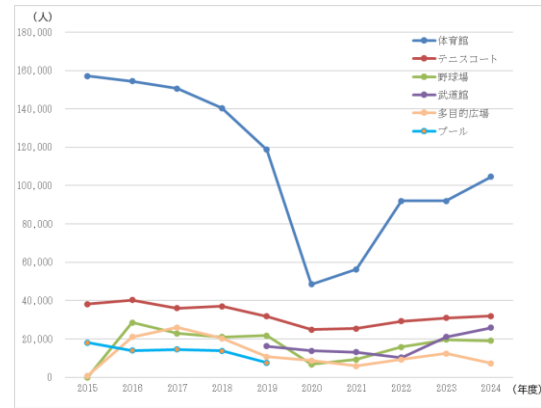
◆ スポーツ施設に関連する主要な計画

- スポーツ施設に関連するものとして、「牛久市総合計画」「牛久市教育振興基本計画」「公共施設等総合管理計画」「牛久市スポーツ推進計画」が策定されている。

◆ スポーツ施設の利用状況

- 運動公園の各施設の延利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により一時的に減少したものの、その後は回復傾向にある。施設別では、体育館の利用が最も多く、プールは令和2年度以降営業休止となっている。

【図表1】運動公園のスポーツ施設別の延べ利用者数



第2章 牛久市スポーツ施設の利用状況、評価等

◆ 牛久市民アンケート調査

調査対象：無作為抽出の牛久市民1,500名(10～79歳)
回答数：479件 (31.9%)

- 施設を利用してスポーツを実施している市民の割合は29.4%で、施設の利用理由は「所属スポーツ団体や知人が練習や試合をセットしたため」が多い。
- いずれのスポーツ施設でも、「とても満足」「やや満足」の合計が60%以上であった。
- 一方で、項目別では、野球場、多目的広場、テニスコート、体育館の「施設や器具・用具」の満足度が相対的に低い。
- 項目別では、テニスコート、体育館、武道館において、「使用料」が最も「満足」の割合が低かった。
- 自由回答では、「スポーツに関する教室の開催」「予約・抽選」「アクセス」「更衣室・シャワー・トイレ」「周知・広報」に関して改善を望む意見が比較的多く見られた。
- プールの今後の利用については、全体では「利用したいと思わない」が約半数を占めたが、10代、30代、40代では「利用したいと思う」が「利用したいと思わない」を上回った。
- 運動公園の施設の拡充に関する要望は、「特に要望はない(69.4%)」が最多であった。
- プロ等の試合を観戦している市民の割合は27.0%で、種目の上位は、「野球(62.4%)」、「サッカー(32.0%)」であった。観戦場所は「市外のスポーツ施設(86.8%)」が最多で、「牛久運動公園のスポーツ施設(28.2%)」が次点であった。

◆ 施設利用者アンケート調査

調査対象：牛久運動公園のスポーツ施設の利用者
回答数：157件

- 70代以上の回答者が半数以上を占めたことから、施設の利用状況及び要望に関する設問は、「60代以下」「70代以上」の属性による分析を行った。
- 「体育館」が最も利用されており、「全体」「60代以下」「70代以上」のいずれにおいても70%以上であった。
- 満足度の割合(とても満足+満足)は、「60代以下」に比べて「70代以上」の方が12.2%低かった。
- 項目別では、「アクセス」「利用可能な時間帯」の満足度が7割を超える一方で、「使用料」「施設や器具・用具の充実度」の満足度は相対的に低い。
- 年代の属性別で項目別の満足度の割合をみると、60代以下では「使用料(59.5%)」が、70代以上では「施設や器具・用具の充実度(49.1%)」が最も低かった。

【図表2】施設利用者アンケート調査「牛久運動公園施設の満足(全般)」

	全体	60代以下	70代以上
とても満足	23.1%	35.4%	5.5%
とても満足+やや満足	72.4%	75.9%	67.3%

【図表3】施設利用者アンケート調査「牛久運動公園の施設の項目別の満足」

	全体	60代以下	70代以上
アクセス	82.7%	アクセス 82.1%	アクセス 83.6%
利用可能な時間帯	73.2%	利用可能な時間帯 70.9%	利用可能な時間帯 76.3%
使用料	63.5%	施設や器具・用具の充実 64.1%	使用料 67.3%
施設や器具・用具の充実度	58.0%	使用料 59.5%	施設や器具・用具の充実度 49.1%

◆ 市内スポーツ団体アンケート調査

調査対象：牛久市内のスポーツ団体
回答数：44件 (68.8%)

- 団体の所属者数は、「29人以下(32.6%)」「30～49人(34.9%)」「50人以上(32.6%)」と、ほぼ横ばいであった。
- 団体の主なスポーツ種目は、「屋外競技(44.2%)」が最も多く、次いで「屋内競技(20.9%)」「武道(16.3%)」となった。
- 個別の種目では、「グラウンドゴルフ(13.6%)」が最も多く、次いで「サッカー(11.4%)」となった。
- 最も利用している運動公園内施設の利用上位3位は、「体育館(33.3%)」「多目的広場(28.6%)」「武道館(21.4%)」であった。
- 全般的な満足度の割合(とても満足+満足)は7割以上、項目別では、いずれの項目も5割以上であった。
- 運動公園以外の施設を利用する頻度は、「週1回以上(88.6%)」、「月1回以上(94.2%)」で、運動公園内の施設よりも高頻度で利用されていた。
- 運動公園以外の施設で利用割合が高いのは、「市内の小中学校の体育館」で、3割以上を占めた。
- 運動公園以外の施設を利用する理由は、「アクセスしやすい・メンバーが集まりやすい(61.8%)」が最も多かった。

◆ プロスポーツ団体へのヒアリング調査

調査対象：牛久市とフレンドリータウン協定を締結しているプロスポーツチーム

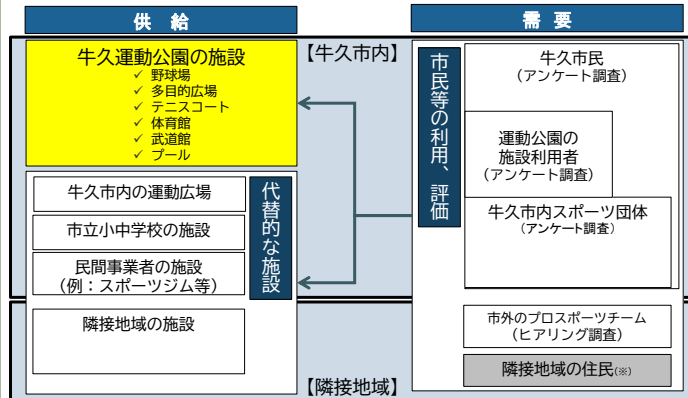
- トップチームの公式戦開催に意欲を示すチームがある一方、施設が公式戦開催基準を満たさないことから、実施が難しいとするチームもみられた。
- プレシーズンマッチなどのトップチームの試合について、開催の可能性を示す団体がある一方、リーグ戦に近い条件の施設を求めるところから、実施を予定しない団体もあった。
- ユースチームなどの試合については、開催の可能性があると意見がみられた。
- 既に子ども向けスクール等を実施しているチームがあり、安定した収入源となっているという意見があった。一方、指導者不足により規模の拡大は難しいとの意見もあった。
- 牛久市を含む県南地域は、人口動向の面で優位な地域であり、スポーツ事業のマーケットとして魅力があるとの意見があった。

第3章 牛久市運動公園の整備に関する今後の方向性

◆運動公園内の6施設の整備に関する今後の方向性の検討

- ▶ 牛久運動公園の野球場、多目的広場、テニスコート、体育館、武道館、プールの6つの施設のうち、武道館以外の施設は、整備から30年以上経過している。
- ▶ 経過年数を考慮し、代替的な施設（市内、近隣市町村）、利用の現状、（アンケート等による）市民等の評価を基に、今後の方向性を検討した上で、今後の牛久運動公園のあり方をとりまとめた。

【図表4】検討の枠組み



◆まとめ

- ▶ 全般的な「満足」の割合は高いものの、項目別にみると「満足」の割合が低い「施設や器具・用具の充実度」と「使用料」については、対策を講じる必要がある。
- ▶ 高齢者を中心に使用料への不満が多くみられたことから、時間帯別料金の導入等による利用促進も検討することが考えられる。
- ▶ 高齢者を中心に、開始時間の繰り上げを求める意見がみられた。現行の職員体制を踏まえ、開始時間の見直しについて検討することが考えられる。
- ▶ スポーツ教室の種目や開催回数の拡充を求める意見がみられたことから、教室の多様化や開催回数の増加の検討が望まれる。
- ▶ 市担当部署との連携を含めた、交通弱者のアクセス方法を検討する必要がある。
- ▶ 予約・抽選のための来館に対する負担軽減のため、オンラインで予約・抽選が完結できるシステム環境の整備が求められる。
- ▶ 施設やスポーツ教室、イベントなどに関する周知・広報を充実させる必要がある。
- ▶ 今回は調査対象とはしていないが、民間活力を活用し市民の満足度を向上させるためにも、指定管理者制度の導入による施設運営の検討も必要である。

【図表5】運動公園内の6施設の市民等の評価と今後の方向性



【野球場】

▶市民等の評価

- 屋外施設の全般的な評価は「満足」が61.9%、「不満」が4.8%であった。
- 一方、項目別では、屋外施設において「施設や器具・用具の充実度」が他の項目よりも低い。

▶今後の方向性

- 高校野球の茨城県大会や、リトルリーグ全国大会等の誘致に対応できるような整備に関する検討が望まれる。
- 暑熱対策としての、空調機器や照明器具等の整備の検討が望まれる。
- 防球ネットの改善の検討も必要と考える。



【多目的広場】

▶市民等の評価

- 全般的な評価は、野球場と同様。
- 屋外施設の利用理由において、「施設や器具・用具の充実度」「利用しやすい営業時間」が他の施設に比べて低い。

▶今後の方向性

- 多目的に利用できるものの、十分に活用されていない。
- 人気種目のサッカーに特化した施設機能の向上も選択肢として考えられる。
- サッカーを中心に利用されている女化運動広場を充実させる方向性も考えられる。



【テニスコート】

▶市民等の評価

- 全般的には「満足」が68.4%と低いものの、項目別の「使用料」についての「満足」は52.6%で、他の項目より低い。
- アンケートの自由回答では、コートの状態や整備用具への不満が見られた。

▶今後の方向性

- 人工芝の補修や、定期的な草刈り等による施設の保全を進めることや、老朽化した整備用具等を交換することが求められる。
- 需要の少ない時間帯における使用料の見直し等の検討をしても良いと考えられる。



【体育館】

▶市民等の評価

- 全般的な「満足」は68.6%と高い。
- 項目別の「使用料」の「満足」は、57.9%とやや低い。「施設や器具・用具の充実度」は、「満足」は低いものの、「不満」が17.9%であった。

▶今後の方向性

- 需要の少ない時間帯における使用料の見直し等を検討してもよい。
- トレーニング施設を中心とした器具・用具の更新を進める必要がある。
- プログラムの種目や回数の増加が望まれる。



【武道館】

▶市民等の評価

- 利用者のサンプルは少ないものの、施設が新しいこともあり、全般的な「満足」は高く「不満」の回答はなし。
- 項目別では「使用料」の「満足」が低く、40%であった。

▶今後の方向性

- アンケート調査では、全般的な「満足」の割合が高かった。
- 現状の「満足」割合の維持に努め、適宜施設や器具・用具の維持・更新を行っていく必要がある。



【プール】

▶市民等の評価

- 全体では「利用したいと思わない」が上回ったものの、10代、30代、40代では「利用したいと思う」が上回った。
- 利用したい理由は「家族や友人との時間をもてるから」が56.4%と最も高かった。

▶今後の方向性

- プールとして再開することはより慎重な判断が必要である。
- 「スポーツ以外に楽しめる施設」に対する意見もあることから、年間を通じて親子や多様な世代が楽しめる公共空間の創出を目指す検討が必要である。